（第三種郵便物認可）　日　本　大　学　新　聞　2008年（平成20年）12月20日（土曜日）　（8）

フェンシング 全日本学生

女子サーブル団体V

学生大会4冠

フェンシングの全日本学生選手権が11月12日から16日まで京都府乙訓郡の大山崎町体育館で行われ、本学は女子サーブル団体で4年ぶり2度目の優勝を飾り、個人の唐沢千夏（文理3＝長野・赤穂高）も初優勝した。この結果、今季の女子団体は学生大会（関東学生リーグ戦、日本学生王座、関東学生選手権）の4冠を達成した。今月11日からの全日本選手権で全大会の制覇を狙う。

文・写真＝名取　沙季

女子サーブル団体は1チーム3人構成で総当たり戦を行う。

本学は決勝で、6月の日本学生王座で下した朝日大と対戦。1番手の唐沢が1―5とリードを許したが、2番手の荻根沢千鶴（文理4＝埼玉栄高）が9得点し、10―8で逆転した。3番手の大西沙希（同3＝福井・武生商高）も踏ん張り15―14で競り勝った。

その後、再び逆転され一進一退の攻防を展開し、最終の9番手で再び荻根沢が登場。気迫のプレーで6点差を付け、45―39で優勝した。

女子サーブル個人決勝は唐沢と荻根沢との同門対決となった。唐沢が終始リードを守り15―10で初優勝を決めた。唐沢は9月から10月にかけて行われた関東学生選手権に続いての優勝。

また、男子エペ個人では昆直毅（法4＝埼玉栄高）が3位に入賞した。

我慢してつなぐ

荻根沢　千鶴

○…学生大会4冠を懸けた女子サーブル団体戦決勝。「勝って当たり前」という前評判通り、チームの調子は絶好調だった。しかし、個人優勝したエース唐沢の調子が上がらない。1番手に登場したものの闘志が空回り、連続失点を許すなど暗雲が漂った。そこへ光明をもたらしたのは、キャプテンの荻根沢だった。2番手に登場し、最初の一打を決めると、さらに相手のミスを誘う絶妙なフェイント。「団体戦はいかに我慢してつなぐかが鍵」という冷静な言葉通り、強気に攻めて10―8と逆転した。

3番手の大西も、1点差に追い詰められながらも危うい局面を耐え切った。しかし、後半になっても唐沢が不調。荻根沢は8番手に出場する唐沢に「大丈夫」と声を掛け背中を押した。唐沢は深くうなずくとこん身の一打で先制した。

自らの手で優勝を決めマスクを脱いだ瞬間、荻根沢は涙をあふれさせた。山崎茂樹監督は「〝勝って当たり前〟だからこそプレッシャーも大きかったのだろう」とキャプテンの活躍をねぎらった。試合後「チームワークの勝利。一人一人がよくつなげられた」と、験担ぎで着ているチームおそろいのTシャツをつかみ笑顔を見せた。今月の全日本選手権でチームは解散する。当然5冠を狙い、有終の美を飾りたい。

提供 ： 日本大学新聞